

令和 8 年 4 月 16 日

◎久保委員長 ただいまから、危機管理文化厚生委員会を開会いたします。

(9 時 56 分開始)

◎久保委員長 本日の委員会は昨日に引き続き、「令和 8 年度業務概要について」であります。

《公営企業局》

◎久保委員長 それでは日程に従いまして、公営企業局の業務概要を聴取いたします。

業務概要の説明に先立ちまして、幹部職員の紹介をお願いします。

(局長以下幹部職員自己紹介)

◎久保委員長 それでは最初に、局長から総括説明を受けます。なお、局長に対する質疑は、各課長に対する質疑と併せて行いたいと思いますので、御了承願います。

(総括説明)

◎久保委員長 続いて、各課長の説明を求めます。

各課長の説明は、適切かつ簡潔をお願いします。また、各委員も簡潔な質疑をお願いします。

〈電気工水課〉

◎久保委員長 まず、電気工水課を行います。

(執行部の説明)

◎久保委員長 質疑を行います。

◎寺内委員 最後にあった建築基準法の云々というのは、やっぱり行政が、土木部は民間に対して建築基準法を厳しく指導しとるから、それで庁内の中でというのは反省していただいて、徹底してもらいたいので、ぜひそこはお願いしたいと思います。

局長から説明があったときに、内部留保金の説明が補填の部分でありましたが、内部留保金の状況は今どんな状態か教えてくださいませんか。

◎石原電気工水課長 内部留保金は手元に資料を持っていません。

◎寺内委員 そしたらまた、資料を頂ければ結構です。

内部留保金を聞いたのが、局長からも説明ありました鏡川工業用水道の耐震化の関係です。一つは今、事業 5,400 万円ほどで上げていると説明がありましたけれど、進捗状況はどのような形か。

◎石原電気工水課長 進捗状況でいいますと当初、令和 4 年ぐらいに管路更新をするということで詳細設計をしたのですが、当初計画してたルートが軟弱地盤で、そこでルートの検討を再度行いまして、昨年度から詳細設計をやっています。昨年、開削部分について詳細設計終わりまして、今年度シールド部分について詳細設計を行う。令和 9 年度には推進工の詳細設計を行いまして、早く令和 10 年ぐらいから工事に着手したいなという計画で

はあります。

◎寺内委員 ということは一定確保して決まったようなルートで行けるというのはもう調査で確認はできているということでよろしいですね。耐震工事になりますので、どうしても今後の分でいうと、使用料を上げることとの関係が出てくると思うんです。工事とその料金関係はどのような関係でしょうか。

◎石原電気工水課長 料金アップについては、先ほどもお話ししましたが、鏡川で大体6億円から7億円ぐらいの内部留保がありますが、そちらで賄える内容ではありませんので、料金アップも含めて、今後ユーザーと意見交換をしながら対応していきたいと考えています。

内部留保金ですが電気事業については80億円ぐらいで、工水事業については7億9,500万円で、約8億円ぐらいです。

◎寺内委員 工水事業、約8億円ということで、非常に電気事業と比べたら全く留保金がない状態で料金改定はやむを得るところも出てくると思うんです。そこで心配するのが、今、地質調査でもコースの設定で苦労もされたのが、潮江地区は、港6社で、高知市だけやなくて高知県全域の経済を支えたところもある、大きな産業を支えたところで、高知市の都市計画でも工業地帯、準工業地帯ということで、言えば市街化区域の中でも特別な工業地帯として位置づけて、昭和の時代から走ってきましたので、港があり、輸送ルートも大きな分だったので苦労もされていると思うんです。今、港6社もいろんな浸水区域で移転もしていています。工業用水を使われる方も少ないんですけれども、実情でいうと今言うた地盤が工業地帯でしたので、いろんな分がどんどん中に埋められているんです。それで次へ移転して、次の方が買うかいうたら買わない状態で、めくればそれを処理せんといかんですから、言うたら環境上の問題でいうと廃棄物が埋められているような状態ですから、東京で起きると豊洲市場の問題がありましたけれど、まさに潮江地区はそういったエリアでもあるんで高知県を支えてきたからですね。その中で工業で頑張っている方が、工業用水を使われて非常に上水よりは安価で非常にありがたいことですから、そのときに上げる分でも今のこの物価高とか、燃料とかいろんな分になったときに、それと留保金だけでなかなか難しいところもあって、南海地震対策との一体化もありまして、高知市は上水のほうは二重線化で完全にもう水道は終えています。高知市が市内一円が一定浸水区域でもあるから、それを防ぐためには上水下水の対応は言われるから、工業用水も大きな課題で高知市にも関わってくる問題です。ここで言わんとするのは、今そのまま留保金だけで、また、上乘せで料金の改定で上げるだけの問題ではなく、今の工業地帯がどれぐらい高知県に貢献してきたか、そこも含め一般会計も検討していただいた上で、1日でも早く耐震化を行う方向性を取るべきやないかと思うところがあって、聞かせてもらっているところです。どう思いますか。

◎石原電気工水課長 先ほど寺内委員のおっしゃったことにつきましては、そういう料金アップ、なおかつ国の補助金を頂いてもなかなか資金は足らないという結果が出ていますので、現在、一般会計についても何とか応援願えないだろうかと、県庁内で協議は始まろうとしている状況はあります。まだ前に進んでいない状況でありますので、今後は一般会計等もいろいろ議論しながら対応していきたいと考えています。

◎中嶋公営企業局長 補足します。一般会計との議論は、これからやっていくところですけど、いかんせん国の補助金、経済産業省になりますけれど、これが心もとないこともありまして、近々、私からも政策提言、もうちょっと充実してくれないかという提言をしようと考えているところです。

◎寺内委員 高知市の分で話させてもらおうと、言うたように上水はもう完全に耐震ができています。下水は高知市は雨水対策でどうしても遅れていたんです。遅れたばかりやから下水は今 50%超えて来ていますけれど、耐震化ほとんどできているような状態なんですよ。国は 10 年概成で下水はもう終わりよと。浄化槽に切り替わることが打ち出されて、いよいよ来年から 10 年概成が途切れますので、完全に高知市は浸水を止めると。言うたら国、県が三重防護の関係でしっかりとやってくれているんで、そうしたら高知市の自分たちはしっかりやっていくんで、工業用水が非常に重点な課題にもなってくるので、ぜひとも少しでも早く整備できるように、また私も力になりたいと思うのでよろしくお願いします。

◎岡本委員 少し細かいことを教えていただけませんか。資材費の高騰が結構今言われています。そういう中で例えば工業用水の中で有形固定資産の中で 8,000 万円の支出が今年度予算で出されていますけれども、高騰の中でこれが増額になる可能性があるのかどうか。あればあったで内部留保金の中から自然に回していくのでしょうか。その辺りの流れを教えていただけませんか。

◎石原電気工水課長 積算については昨年度、業者に見積りも取らせていただきまして、県の積算基準を基に積算をしています。これまでの経過でいきますと、予算以上の金額になってはいたのですが、今結構、人件費が上がっていますので、実際、今度積算してどうなるのかというのがあると思いますが、そこがもし足らないようであれば予算流用して対応していきたいと考えています。

◎岡本委員 それは内部留保金の中から運用することによろしいんですね。

◎上田委員 今アメリカとイスラエルのイランへの攻撃で原油価格が上がって、いろんな問題が起きているわけですがけれども、今後エネルギー確保をどう対応していくかのところで、例えば自然エネルギー、いろいろあるわけですがけれども、太陽光とか風力とかもあるけれども、天気次第で発電量が変わるということで、2017 年頃から一部で注目されておったのがいわゆる海流発電。海流の流れ、あれを I H I などいろいろ企業がやられゆうわけですが、実は私の知人のところに商業発電の実用化実験の話が来ていまして、私も調べた

んですが、これ非常に面白いです。部内でも話があったかと思いますが、最有力候補が室戸の沖とか足摺岬の沖もいいらしいんですが、とにかくある程度の条件として安定した流れがあって、海底地形が比較的安定していて、送電ケーブルの施設が可能であったり、浸水が1,000メートルぐらい必要だそうなんですけれども、非常に可能性が高いんじゃないかと思います。何かそういう情報は。

◎久保委員長 公営企業局として、民間じゃなくて公営企業局として、そういう可能性を検討したことがあるかというような御質問だと思います。

◎石原電気工水課長 上田委員から御質問あった件について、そこまで情報収集をできてまいせん。

◎今城委員 二、三年前に潮流発電って調査したんじゃない。

◎石原電気工水課長 以前、2年か3年ぐらい前に温度差発電、室戸で海洋深層水の取水しているところで、そこで温度差発電ができないかどうか調査検討はしました。結果的にはなかなか温度差がそんなになく、事業化に向けては厳しいという結果が出たもので、その後検討はしておりません。潮流については今初めてお聞きしましたので、その情報については収集して、局内で検討していきたいと考えています。

◎中根委員 発電力、いろんなパターンがあると思うんですが、風力発電はもう閉鎖し、この間の歴史の中では小水力発電に目線をというのがあるって、あの検討は今どうなっているのか教えてください。

◎石原電気工水課長 昨年度、9月補正で予算を取らせていただきまして、物部川水系におきまして安丸、猪野々、河ノ内、白石、頓定の5地点において、可能性調査を昨年やらせていただきました。調査結果から言いますと、全て40年先も20年間FIT単価で、その後10円ぐらいで売電をした場合にはマイナスという結果は出てしまいましたが、この5か所についてもう少し可能性があるんじゃないかという地点が1か所ありますので、その点について今年度予算を取っていないんですが、補正予算を取るなりして、もう少し踏み込んだ検討はしていきたいと考えています。

◎久保委員長 私もそのことに関連して、少しお聞きをしようと思ってたんですけど、小水力、先ほど中根委員も言いましたように、これから県として公営企業局としてやはり小水力と思うんです。日本は2050年カーボンニュートラルを打ち出しとって、なかなかそれに向けて今厳しい数値が出ていますけれども、私は高知県は再生可能エネルギーのところに力を入れていかないと。その可能性のある県だと思っていて、当然、民間は風力だとか太陽光、また別のさっき上田委員が言われたようなことも今後可能性としてやっていて、一方で県として公営企業局は小水力、これに力を入れていく。当然、そういうカーボンニュートラルの窓口は林業振興・環境部ですけども、そこと一緒になって積極的に公営企業局に、小水力、先ほど課長がおっしゃったように5か所調べて1か所可能性

があるということで、そういうのも含めて積極的に、林業振興・環境部局と一緒に進めていただきたいと強く思っています。お構いなかったら局長に前向きな御答弁を頂いたら。

◎中嶋公営企業局長 久保委員長おっしゃったように、公営企業局としてもやはりCO2削減であったり、そういったところには積極的に取り組んでいこうとしておりまして、何とか、先ほど石原課長から報告しましたけれど、去年の小水力の調査、1か所、何とかいけるんじゃないかという思いもあるんで、その辺しっかり林業振興・環境部とも連携しながら詰めていって、できれば今年度中に方向性を出したいと思っています。積極的に取り組んでまいります。

◎久保委員長 質疑を終わります。

以上で、電気工水課を終わります。

〈県立病院課〉

◎久保委員長 次に県立病院課を行います。

(執行部の説明)

◎久保委員長 質疑を行います。

◎寺内委員 東のあき総合病院、西の幡多けんみん病院、私も県内を回るときに非常に県民の皆さんは重要な病院で民間でできない分を支えていただいて非常にありがたいと思うんです。幡多けんみん病院は過去には麻酔医の働き方の関係でいろいろあったと思うんですが、法律違反は違反であれなんですけれども、本当によく働いとして、幡多けんみん病院のドクターも看護師も幡多県民の方が非常に高い評価を直接聞いて、病院も行かせてもらったりするときに、皆さんが本当寄り添った仕事をされていると見ているんです。他方これは指摘になるんですけれども、東のあき総合病院なんですけれども、非常に私には苦情の電話が殺到したので、病院ものぞきに行ったりしたときに、皆さんから聞くときに、安芸周辺、東部の周辺の皆さんからは、医師と看護師が横柄というか、そういった態度が非常にあって不満の声が多数の患者からあったりして、苦情を受けて課にもつないだりしたことがあるんですけれども、課長新しく替わられてきましたけれど引き継がれて、今、その辺りどのように局としたら見られているか、聞きたいと思うんです。

◎梶原県立病院課長 御指摘いただきました点、深く我々関係者一同、心に留めていきたいと思えます。年度当初に、私も新任ですし、局長、次長と含めて両病院にも挨拶回りにお邪魔をしました。その中で院長ともお話をする中で、やはり地域の皆さんに愛される病院であり続けたいと。そのためにはやはり急性期医療を担う医療機関として、もちろん基幹的な仕事をする。その上ではやはり皆さんの信頼がないとということがありますので、その辺りは院長もスタッフの皆さんにスムーズにコミュニケーションを取っていききたいという思いを共通して語られておりましたので、急性期医療を担う非常に使命に燃えていま

すが、当然にスタッフが生き生きと働けないとやはりいい仕事につながらないと思いますので、その辺り我々も院長のみならず、病院現場のスタッフともうまく意思疎通をしながら、改めるべきところは早急に改める、常に改善する姿勢を持って臨んでいきたいと思います。

◎寺内委員 他方指摘だけじゃなくて、議会でも赤字を黒字と今報告の分。けれど、ある面、人口も減って高齢化もしていったって、やむを得るところで、民間が背負えない、公で背負わざるを得んような形が、西、東の分で県立病院が抱えていますので、ここはあまりにも民間だったらどんどん黒字にするために、どうしても経営改善をいろいろしていったって厳しく、絞ってくるところもあるんでしょうけれど、ここに一定寄り添えないところは忙しくなったら、その余裕もなくなるところもあるんで、その辺りのバランスも考えていただいて、なかなか難しいことではありますけれども、お願いしておきたいと思います。

それともう一点、危機管理部の防災ヘリの関係でもお聞きしたんですけれど。もう一つがドクターヘリもあって、高知市が東寄りにあるんで、幡多圏域に防災ヘリにしてもドクターヘリにしても、よく飛び立って、幡多けんみん病院を非常に使うケースが多いと思うんです。今、消防隊員にもいろいろ話を聞いたりするときに、よしんば幡多けんみん病院にドクターヘリがおってくれたら、ありがたいとの声も上がっているところがあるんです。それと数的にしても、その辺り予算もいろいろあったりもあるでしょうけれども、幡多けんみん病院の中でといったことは全く今まで御検討はないのでしょうか。救命救急センターとの関係もあるでしょうけれど、ヘリを置いてドクターが乗るということで、救命救急センターがあるなしの問題じゃなくて、工夫は他県ではされて2機置いとるところが現にあったりもしているんですが、その辺り御検討された経緯はないのでしょうか。

◎太田県立病院課企画監（経営企画担当） ドクターヘリのことについてこの数年私がいる間ではそういった検討がされているのは聞いたことがありませんが、恐らく病院だけの力で置くことはできない部分があると思いますので、公営企業局だけでなく、健康政策部などともいろいろ協議して検討を進めていくことになると思います。

◎寺内委員 大きな話で急で何も言うてなかったんで申し訳ないんですけど。というのは宿毛市の病院等についても、民間の病院がドクターカーを出したりしながら補っていていますし、本当に幡多圏域の医療機関は皆さんで県民の命を守る。幡多けんみん病院を中心にしながら2次救急ですけれど守ろうとしながら、皆さん共通で、非常に私も関心を持っていますので、一体でしたときに医療センター、一次救急との関係も非常に重要なところで、県民病院で終わっていただければいいですけど、終われない。移送に時間が物すごく重要視されておると声を聞いていますので、また私も別の立場でお話も上げさせてもらいたいと思うので、一つの一考として捉えてもらえればと思います。

◎久保委員長 要望ということで。

◎中嶋公営企業局長 少し補足したいと思います。ドクターヘリは健康政策部で外部委託で、全体を回している状況です。ドクターヘリは数が限られているんで、それがもし足りないならば、場合によっては県の防災ヘリの活用もしていますので、今のところヘリがないから困ったことになった事例を聞いたことはありません。なお、その在り方については研究してまいりたいと考えています。

◎岡本委員 私も実態のことはよく分からないんですけども、幡多けんみん病院の関係で、例えば民間の病院の紹介状がない場合とある場合で受診料が違う話を聞いたんですけど、それは実際にあるんですか。

◎太田県立病院課企画監（経営企画担当） 幡多けんみん病院では、令和7年度から受診について紹介がない場合は料金が異なる制度を、入れています。

◎岡本委員 それが事実だとすれば、患者数も減っているじゃないですか。そういうところに影響しているのではないかと思うんですけども、その辺りの考え方についてはどうですか。

◎梶原県立病院課長 先ほども申し上げましたとおり、年度当初に幡多けんみん病院の新しい院長とも話をする機会がありまして、その中でやはり急性期を担う中核病院として、もう少し救急の患者など、より見ることができれば、幡多の医療圏における医療の質がさらに向上できる余地があるのではないかと、院長は、今、分析をして院内で取組をしようとする動きをされています。そうした動きが結果的に病院の収益への経営改善にもつながると考えていますので、ただやみくもに数字を追いかけることが主眼ではないと思いますが、幡多の医療圏における医療の質、サービスをさらに向上させたい思いがあります。

◎岡本委員 状況を見ながら今後も検討をされていくということによろしいですね。

◎久保委員長 質疑を終わります。

以上で、県立病院課を終わります。

以上で、公営企業局の業務概要を終わります。

以上で、全ての日程を終了いたしました。なお5月12日火曜日からは、出先機関等の業務概要調査が始まります。5月12日は高知市、南国市、香美市方面の出先機関の調査であります。議事堂を午前9時出発となっていますので、よろしくお願いします。

これで委員会を閉会いたします。

（10時58分閉会）